

公益目的事業

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)は、ユネスコの基本方針に基づき、アジア太平洋地域諸国の教育と文化の振興を図るため、平成 27 年度に以下の通り事業を実施しました。

I 人物交流事業

諸外国と教育と文化の分野での交流を通じて相互理解の進展に寄与することを目的に教職員の交流事業を行いました。

1. 中国・韓国教職員交流事業

国際連合大学の委託により、初等中等教育に携わる教職員を対象にした以下の事業を行いました。

(1) 中国派遣プログラム

中国教育部等の協力により中国派遣プログラムを実施しました。

13 回目を迎えた今回、東京都、長崎県、熊本県、千葉県、北海道の教職員等 25 名を中国に派遣しました。

出発前に、文部科学省による「中国の教育事情について」と題した講義と、前年度



プログラム参加者の発表などを含めたオリエンテーションが開催され、参加者の目的意識を高めるとともに情報共有を図ることができました。また、オリエンテーション終了後、在日中国大使館教育部の方々を招いて懇親会を催しました。

中国では、北京で教育部より中国の教育方針と概要の説明があり、教育政策の現状や課題について学ぶ機会が与えられました。その後、広西チワン族自治区の南寧と

桂林を訪問し、教育庁と学校 3 校を訪問しました。教育庁での説明や意見交換、学校訪問での児童生徒との交流を通し、中国の教育事情について、理解を深めることができました。上海で訪問した学校では、中国の最新の教育事情を視察することができ、日本の教育を比較することで、今後の課題を見つけた参加者もいました。

プログラム名：中国政府日本教職員招へいプログラム

日時：平成 27 年 5 月 23 日(土)~5 月 31 日(日)

参加人数：25 名（国際連合大学、文部科学省職員および ACCU 職員計 5 名含む）

訪問地：北京市、広西チワン族自治区、上海市

（２）韓国派遣プログラム

韓国ユネスコ国内委員会等の協力により韓国派遣プログラムを実施しました。

ユネスコスクールを含む全国各地の学校および教育委員会の教職員等 50 名を韓国に派遣しました。

出発前日には千葉県成田市にてオリエンテーションを実施しました。オリエンテーションでは、文部科学省による講義を受け、渡航前に韓



国の教育事業についての理解を深めました。また、前年度参加者から日韓の教育交流についての発表、ESD やユネスコスクールの取り組みについて情報共有をするアクティビティーを実施し、本プログラムおよび今後の教育交流への目的意識が高められました。

現地到着後、韓国の教育の最近の動向やユネスコスクールの活動についての説明を受けました。その後、ソウルで各 1 校、A グループは全羅南道で 2 校、B グループは京畿道で 2 校、ユネスコスクールを訪問しました。ユネスコスクール訪問では、熱烈的な歓迎で一行が迎えられ、授業見学や教職員、児童生徒との交流はもちろん、ESD やユネスコスクールの取り組みについても実際に見ることができました。最後に、釜山で報告会が行われ、各グループが韓国訪問中に学んだことや成果について発表しました。報告会終了後には、文部科学省の下村博文大臣（当時）、教育部の黄祐呂長官出席の下行われた日韓教育交流サミットに出席し、訪問団の代表者がパネルディスカッションでパネラーを務めました。

プログラム名：韓国政府日本教職員招へいプログラム

日時：平成 27 年 8 月 25 日(火)~8 月 31 日(月)

参加人数：50 名（国際連合大学、文部科学省職員および ACCU 職員計 6 名含む）

訪問地：ソウル、全羅南道・京畿道、釜山

派遣終了後、両プログラムの実施報告書を作成し、教育現場での今後の活用のために、参加した教職員、関係機関に配布しました。また、今後の招へいプログラムなどで協力をお願いしている関係団体にも配布し、広報に努めました。

（３）中国教職員招へいプログラム

今回 14 回目となる本プログラムでは、平成 28 年 1 月に中国から 98 名の初等中等教職員を招へいしました。

東京で文部科学省からの講義を通じて日本の教育について学び、3 グループに分かれて私立の中高一貫校各 1 校を訪問しました。その後、各グループは熊本県荒尾市、長崎県長崎市、石川県小松市に移動し、教育委員会、学校関係者のご協力を得て、学校や教育文化施設を訪問しました。地方でも各グループ 2～3



校を訪問し、教育現場の視察により日本の教育について理解を深めるとともに、教職員や児童・生徒との交流などを通じて、今後の友好的な交流の促進につなげました。

地方での日程を終えた 3 グループは、福岡にて再集合し、報告会を行いました。報告会では、プログラムの受入にご協力頂いた教育委員会の方にも参加いただきました。

本プログラムの実施報告書を作成し、教育現場での今後の活用のために、参加した教職員、関係機関に配布しました。また、今後のプログラムで協力をお願いしている関係団体にも配布し、広報に努めました。

プログラム名：国際連合大学 2015-2016 年国際教育交流事業 中国教職員招へいプログラム

日時：平成 28 年 1 月 18 日（月）～24 日（日）

参加人数：98 名

訪問地：東京都および近郊、熊本県荒尾市、長崎県長崎市、石川県小松市、福岡県

訪問学校：

A グループ 日本大学豊山中学校・高等学校、荒尾市立荒尾第四中学校、荒尾市立中央小学校、荒尾市立万田小学校

B グループ 市川学園市川中学校・高等学校、長崎市立朝日小学校、長崎市立桜馬場中学校、長崎市立淵中学校

C グループ 立教池袋中学校・高等学校、小松市立高等学校、小松市立丸内中学校

（４）韓国教職員招へいプログラム

今回、16 回目となる本プログラムでは、韓国の初等中等教職員 111 名を招きました。東京において文部科学省より、日本の教育について講義を受けたのち、3 グループに分かれ、東京近郊で各 1 校、学校を訪問しました。また、過去の国際教育交流事業参加者をはじめとする日本教職員との夕食交流会を行い、教育についての意見を交し合うなど交流を深めました。その後、東京都狛江市・埼玉県さいたま市・長野県の

各教育委員会、学校関係者のご協力を得て、その地域の学校や文化・教育施設を訪問、



ESD 活動を視察し、教職員や児童・生徒との文化交流、意見交換などを行いました。3つのグループは最後に千葉県成田市に集合し、ワークショップ形式での報告会を行いました。本プログラムの実施報告書を作成し、教育現場での今後の活用のために、参加した教職員、関係機関に配布しました。また、今後のプログラムで

協力をお願いしている関係団体にも配布し、広報に努めました。

プログラム名：国際連合大学 2015-2016 年国際教育交流事業 韓国教職員招へいプログラム

日時：平成 28 年 2 月 16 日（火）～22 日（月）

参加人数：111 名

訪問地：東京都、千葉県、東京都狛江市、埼玉県さいたま市、長野県、千葉県成田市

訪問学校：

A グループ 千葉県立流山おおたかの森高等学校、狛江市立狛江第六小学校、狛江市立和泉小学校、狛江市立狛江第一中学校、狛江市立緑野小学校

B グループ トキワ松学園中学校高等学校、さいたま市立新開小学校、さいたま市立さくら草特別支援学校、さいたま市立木崎中学校

C グループ 昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校、長野県中野西高等学校、長野県長野養護学校、長野県長野西高等学校

（5）タイ教職員招へいプログラム

今年度より始まった本プログラムでは、タイの初等中等教職員 15 名を招へいしました。文部科学省を表敬訪問し、日本の教育事情についての講義を受けたのち、学校訪問を実施しました。小中高、特別支援学校を各 1 校ずつ訪問し、授業参観や教職員・児童生徒との交流、意見交換会などを行うことで日本の教育について理解を深めました。また、日本教職員との交流会を開き、異文化教育、食育、環境教育などをはじめとした様々な話題でグループディスカッションを行いました。ホームステイでは一般家庭に 1 泊し、日本の文化や家庭教育についての理解を深めました。本プログラムの実施報告書を作成し、教育現場での今後の活用のために、参加した教職員、関係機関に配布しました。また、今後のプログラムで協力をお願いしている関係団体にも配布し、広報に努めました。

プログラム名：国際連合大学 2015-2016
年国際教育交流事業 タイ教職員招へ
いプログラム

日時：平成 27 年 11 月 9 日（月）～15
日（日）

参加人数：15 名

訪問地：東京都、千葉県

訪問学校：荒川区立尾久宮前小学校、関
東国際高等学校、千葉県立桜が丘特別支
援学校、渋谷区立原宿外苑中学校



2. ESD 分野での日米教員交流事業

日米教育委員会(フルブライト・ジャパン)の委託により、日本側運営団体として「ESD 日米教員交流プログラム」を実施しました。

このプログラムは、ESD をテーマとし、選抜された日米の教員が相互に相手国を訪問し、交流を行うことで日米の教育交流と ESD の推進を図ります。学校訪問、児童生徒や教員との意見交換、教育関連施設視察、ホームステイ等を通じて、お互いの文化を知るとともに、日米両国で協力して教材、研究活動、授業等の計画を立てるため、相手国訪問中に日米教員が全員集まる合同会議が開催されます。本年も米国においてはサンフランシスコで、日本においては東京で開催されました。この会議には過去の参加者の一部も事例発表者として参加し、年度を超えた交流も図っています。

4 月に日本人教員 14 名が訪米し、6 月には米国人教員 14 名が来日して東京都、福岡県大牟田市で交流活動を行いました。

平成 21 年度から始まり、今回が 6 回目となりました。これまでの共同プロジェクトの一部は日米教育委員会のウェブサイトでご覧いただけます。

<http://www.fulbright.jp/esd/project.html>

プログラム名：ESD 日米教員交流プログラム

○日本教員の訪米

日時：平成 27 年 4 月 25 日(土)～5 月 8 日(金) (合同会議 5 月 4 日～6 日)

参加人数：14 名

訪問都市：ワシントン DC、サンフランシスコ

○米国教員の来日

日時：平成 27 年 6 月 23 日(火)～7 月 5 日(日) (合同会議 7 月 2 日～4 日)

参加人数：14 名

訪問都市：東京都、福岡県大牟田市

訪問学校：自由学園、稲城市立稲城第二小学校、大牟田市立吉野小学校、大牟田市立田隈中学校、福岡県立ありあけ新世高等学校、福岡教育大学附属久留米中学校

II 模擬国連推進事業

協賛企業からのご寄附を得て、次世代の国際人／グローバルなリーダーを育成することを目的に第9回日本代表団派遣支援事業および第9回全日本高校模擬国連大会を実施、開催しました。ACCUは平成24年度から大学生で構成されるグローバル・クラスルーム日本委員会とともに、高校模擬国連活動の事務局機能を担っています。

(1) 日本代表団派遣支援事業

平成26年11月に実施された第8回全日本高校模擬国連大会において、優秀な成績を収めた6校から12名の高校生を米国ニューヨークにある国連本部等で実施された高校模擬国連国際大会に派遣しました。



主催団体から日本代表団に割り当てられた国は「シリア・アラブ共和国」でした。数ヶ月の準備を経て、綿密な準備のもとで会議に臨んだ結果、1チームが優秀賞、1チームがベストポジションペーパー賞(事前に提出する政策に対して与えられる賞)を受賞しました。

プログラム名：第9回日本代表団派遣支援事業

日時：平成27年5月12日(火)～5月18日(月)

※会議は5月14日～5月16日

参加校：実践女子学園高等学校、渋谷教育学園渋谷高等学校、聖心女子学院高等学校、桐蔭学園中等教育学校、灘高等学校、六甲高等学校

参加人数：6校12名、引率教諭6名、グローバル・クラスルーム日本委員会5名、ACCU職員1名(国際大会全体：22か国約1500名)

場所：米国ニューヨーク州



(2) 全日本高校模擬国連大会開催事業

グローバル・クラスルーム日本委員会と共に第9回全日本高校模擬国連大会を開催しました。これまでに最多の136校203チームの応募があり、日本語・英語の課題論文審査を通過した64校80チームが全日本大会に参加しました。

今回の全日本大会では「国際移住と開発」が議題として設定されました。出場チームは割り当てられた国の大使として一か月間で準備を進めました。大会当日は2日間延べ12時間の論戦を交わしました。厳正な審査を経て優秀な結果を収めた6校が選出され、平成28年5月に米国で開催される国際大会に派遣されました。



プログラム名：第9回全日本高校模擬国連大会

日時：平成27年11月14日(土)～15日(日) 場所：国際連合大学（東京）

参加人数：高校生160名、引率教員約80名（全64校80チーム）、見学者約250名

＜全日本大会参加高校生の声＞

- 資料探しが難しい議題であったが、今の世界を考える上で欠かせない要素であり、その分野における知識を得ることができて本当によかった。
- 時間内に自分たちの国益、国際益を追求して文書を作成することの難しさを感じた。この大会に限らず、自分の主張のポイントを要約しておくことが普段の話し合いでも重要になると感じた。
- この経験は今後の人生に大きく影響すると思う。新たな自分が見つけれられた気がする。

模擬国連とは：

模擬国連とは1チーム2人の代表が日本以外の国の大使となり、その国の国益・国民を守るために国連活動を行います。割り当てられた担当国の国益を最大限に考えつつ、同時に国際社会全体の共通利益も探り、本番さながらの国連での会議外交を推進します。単に相手を言い負かすことなく、議論となる問題への深い知識や洞察、高度の判断力・交渉力そしてコミュニケーション能力が必要となります。

日本では大学生の模擬国連は20年以上の歴史がありますが、グローバル・クラスルーム日本委員会による高校生の模擬国連活動は2007年の第1回日本代表団の国際大会への派遣から始まりました。

III 教育協力事業

1. ESD・EFA 推進事業

(1) 国連 ESD の 10 年推進事業

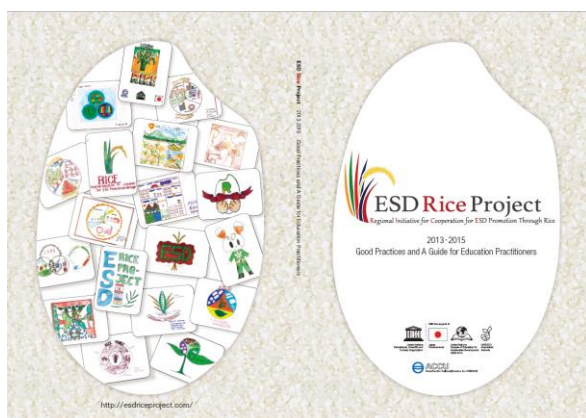
ユネスコパリ本部委託 ESD 推進事業として実施してきた、「お米」をテーマにした「ESD Rice プロジェクト」と COE 事業を終了しました。

① ESD Rice プロジェクト

本プロジェクトは「お米」を国際協働学習の共通のテーマとし、持続可能な社会のための「変化の担い手」となる若者を育成することを目指しており、ACCU が 2011 年より実施しています。本フェーズ(2013～2015 年)は、次の 5 点に焦点を当てたプロジェクトを行いました。第 1 にユネスコスクール間の国際協働学習の推進、第 2 に「変化の担い手」となる若者の育成、第 3 に ESD の推進、第 4 に学校と地域に根ざした学習の推進、第 5 に現職教員研修です。

2015 年 6 月に参加校の実践紹介や国際協働学習を実施するための参考書となる報告書を刊行しました。報告書制作にあたり、国際協働学習を実施する際の 8 ステップが開発され、現場の先生により分かりやすく、活用しやすいツールが新たに出来上がりました。

プロジェクトは 2015 年 6 月で終了となりましたが、教員研修への参加やプロジェクトで制作された本を翻訳するなど、参加した学校ではその後も交流・協働学習が展開されています。



プロジェクト名：ESD Rice プロジェクト

委託期間：平成 25 年 10 月 1 日(火)～ 平成 27 年 6 月 30 日(火)

参加校数：19 校（2015.5 現在）

ESD Rice プロジェクトの報告書の表紙と裏表紙

② COE (推進拠点機関) 事業

アジア太平洋地域の 4 団体を持続可能な社会のための教育（ESD）を推進する拠点「COE (Centre of Excellence)」として支援した事業を終了し、2015 年はユネスコパリ本部へ ESD Rice プロジェクトと合わせて会計報告を行いました。

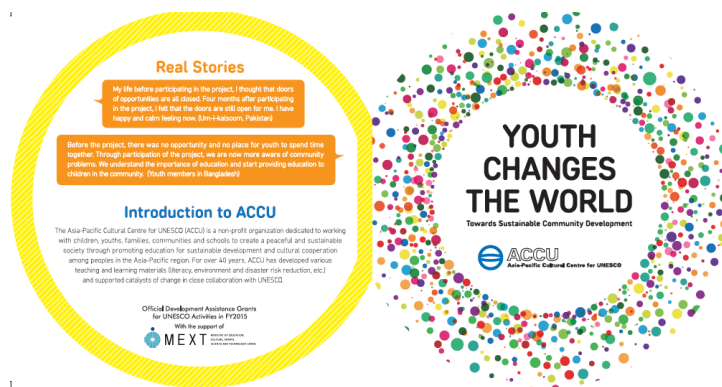
<参加団体>

- ・アジア南太平洋基礎教育・成人教育協議会（ASPBAE）（フィリピン・マニラ市）
- ・ダッカ・アーサニア・ミッション（DAM）（バングラデシュ・ダッカ市）
- ・タイ環境研究所（TEI）（タイ・バンコク市）
- ・TVE アジア太平洋（TVEAP）（スリランカ・コロンボ市）

（２）若者主体の持続可能なコミュニティ開発のための事業の実施

文部科学省政府開発援助ユネスコ活動費補助金をうけ、アジア地域の若者(15～35 歳)がみずから持続可能なコミュニティ開発を遂げるよう、ESD を通して支援を行う本プロジェクトは2014年より ACCU が新たに実施している事業です。本事業の目的は第1に、若者の主体的な学びを通して持続可能なコミュニティを創造する「変化の担い手」を育成すること。第2に、「変化の担い手」が地域の持続可能な開発に向けて具体的な活動を起こすことです。パイロットフェーズとして位置づけられた平成 26 年度はパキスタン国パンジャブ州にある 2 つの村において、60 名の男女を対象に、現地 NGO と協同して事業を行いました。平成 27 年度は対象国をパキスタンとバングラデシュとし、延べ 585 名の若者がコミュニティ開発に携わるようになりました。

また事業 2 年目にはユネスコバンコク事務所、ユネスコイスラマバード事務所、ユネスコダッカ事務所との連携を強化することができ、事業の質向上のためのネットワークを確立させることができました。さらに ESD をノンフォーマル教育分野で実施する際の学習ステップを開発し、このステップを活用して事業 3 年目を実施する予定です。



プログラム名：平成 27 年度文部科学省政府開発援助ユネスコ活動費補助金事業「若者主体の持続可能なコミュニティ開発のための学びパイロット事業」

対象国：パキスタン、バングラデシュ

参加人数：585 名

平成 27 年度に制作したリーフレット

（３）ESD 活動支援センター

文部科学省と環境省の共同提案により設置する ESD 活動支援センター事業に特定非営利活動法人「持続可能な開発のための教育推進会議（ESD-J）」と業務提携により参画しました。平成 27 年度はセンター開設前の準備に従事しました。

2. 識字教育協力・LRC(女性のための識字教育センター)・ネットワーク事業

(1) SMILE Asia プロジェクト

アジアの女性識字振興基金をはじめ識字事業へのご寄附を得て、LRC(女性のための識字教育センター)と協力してカンボジアで「SMILE Asia プロジェクト(母子保健教育と識字環境推進事業)」を実施しました。

「読み書きを学び、子どもに勉強を教えたい。」「自分がモデルとなり、子どもが学校に通うように励ましたい。」「子どもを健康に育てるための食事について学びたい。」そんな思いを胸に、小さな子どもたちを育てるカンボジアのお母さんたちは、SMILE Asia プロジェクトの識字教室に通っています。

SMILE Asia プロジェクトはACCUがアジアで推進する母子保健をテーマにした識字教育支援プロジェクトです。これまでにアジアの7か国で展開し、現在はカンボジアで実施しています。女性の間で関心の高い母子保健をテーマにし、家庭でも子どもと一緒に活用できる教材を提供することで、クラスを卒業した後も、日常生活で識字能力を使い続ける環境を現地の団体と一緒に作っています。

平成 27 年度はプノンペン市に新しく編入された地域で 150 名の成人女性を対象とした識字教育と母子保健活動を行いました。ACCU 職員は平成 27 年 8 月に現地をモニタリング訪問し、学習者や教育者からプロジェクトに関するヒアリングを行ないました。インタビューを通して分かったことは、識字教室の学習者は文字の読み書き計算と保健の知識だけでなく、生活向上(例：農業技術に関する内容、小規模ビジネスの方法など)に関する知識も増やしたいということでした。平成 28 年度の事業ではそれらの要望にもこたえられる活動を展開する予定です。



平成 26 年に対象とした村を追跡訪問。女性たちは自主的に識字教室を続けていました。

プログラム名：SMILE Asia プロジェクト

場所：カンボジア国カンボン・スプー州の村 参加人数：90 名（直接裨益者）

<ご協力感謝申し上げます>

凸版印刷株式会社様

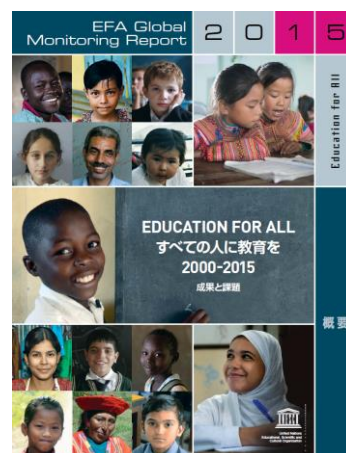
維持会員でもある凸版印刷株式会社様は、国際社会の課題である「識字能力の向上」を支援するチャリティーコンサートを3月11日（木）、13日（土）に開催し、チケット収入から出演料を差し引いた金額をご寄附いただきました。

トッパンチャリティーコンサートウェブサイト：<http://www.toppan.co.jp/charityconcert/>

その他、小石川ロータリークラブ様をはじめ、ご支援いただいた皆様に心から感謝いたします。

（２）EFA グローバルモニタリングレポート 2015 概要日本語版発行およびシンポジウム開催

ユネスコの「グローバルモニタリングレポート 2015 概要（テーマ：すべての人に教育を 2000-2015 成果と課題）」の日本語版を JICA（独立行政法人国際協力機構）、教育協力 NGO ネットワークとともに発行しシンポジウムを開催し、過去最多の約 200 名が参加しました。（7月27日、JICA 市ヶ谷ビル国際会議場にて）同レポートは希望者に配布し、教育現場で活用されています。



*EFA とは：Education for All

EFA は 2015 年までに世界中のすべての人たちが初等教育を受けられる、「読み書き計算」ができるようになるなど、教育環境を整備しようとする取組みです。EFA の進展を把握するために、2002 年より EFA グローバルモニタリングレポートが発表されています。

（３）アフガニスタン国識字教育強化プロジェクトへの職員派遣

JICA が実施している「アフガニスタン国識字教育強化プロジェクトフェーズ 2」に職員を派遣し、アフガニスタン教育省識字局とともに、同国識字局のモニタリング・技術支援能力の強化に関わる活動を行っています。

これまでに開発したモニタリング、学習達成度評価ツール等について、21 県の県・郡識



字局職員及び NGO 等職員、計 266 名の研修を行いました。また、識字教師が学習達成度評価ツールをより使用しやすいように、映像教材を試行的に開発し、北部のバルフ県、東部のナンガルハル県の識字教師、計 40 名に学習者評価についての研修を実施しました。

学習者の学習ニーズに即した識字教育を識字局が実施するためにはコミュニティの人々の参加が重要なため、バルフ県とナンガルハル県においてコミュニティの状況や識字学習ニーズ調査を行なったほか、TV とラジオを用いた識字啓発活動を行いました。

治安状況の問題により、アフガニスタンへの日本人の渡航が難しいため、識字局職員やプロジェクト現地職員をインドに招へいし、話し合いや研修を実施しました。本プロジェクト活動の意義と現地の高い識字ニーズに鑑み、JICA は本プロジェクトを 2018 年 1 月まで延長を決定しました。

プログラム名：アフガニスタン国識字教育強化プロジェクトフェーズ 2 (LEAF2) 4 年次

期間：平成 22 年 4 月～平成 28 年 1 月まで延長

派遣先：インド

(4) 広報／国際識字デーイベント開催

国際識字デーイベントとして、世界の識字環境への関心を高めることを目的に、シャンティ国際ボランティア会 (SVA)、日本ユネスコ協会連盟 (NFUAJ) と共に「持続可能な開発」をキーワードに教育や企業の CSR 活動、現地での活動などについての報告会を行いました。

開催日時：平成 27 年 9 月 8 日 (火)

主催：ACCU、シャンティ国際ボランティア会、日本ユネスコ協会連盟

開催場所：東京 JICA 地球ひろば 参加人数：55 名

国際識字デーとは：

国際識字デーは 1965 年 9 月 8 日、イランのテヘランで開催された世界文相会議で、パーレビ国王が軍事費の一部を識字教育にまわすように提案したのを記念し、ユネスコが制定した記念日です。日本ではあまり知られていませんが様々な国、場所で、識字の重要性を理解するために、パレード、式典、勉強会の実施や、劇の上映などが行われています。

また下記会場で識字資料展を開催し、来場者に EFA について考える機会を提供し、寄附のご協力をいただきました。

・東京医療保健大学「医愛祭」 場所：世田谷キャンパス 開催日時：平成 27 年 11 月 1 日～2 日

3. ユネスコスクール推進事業

(1) 日本／ユネスコパートナーシップ事業

① 文部科学省の委託を受け、ユネスコスクール事務局として公式ウェブサイト運営、管理するほか、ユネスコスクール加盟申請支援サポートならびに、加盟後の活動支援を行いました。また、本年度からユネスコスクール支援大学間ネットワーク (ASPUnivNet) の事務局運営も担い、ユネスコスクール加盟申請から加盟後の活動までを一元的に支援しました。

<平成 27 年度主な事業>

● 国際協働学習プロジェクト (ESD Food プロジェクト) 実施



「食」をテーマに学校が位置する地域コミュニティや国、世界を持続可能な社会とするために、児童生徒が「変化の担い手」となり活動をしました。日本から 7 校、インドから 5 校が参加しました。各学校の取り組み事例を制作物『協働学習プロジェクトをはじめようーESD Food プロジェクトの実践から』（日英併記）にまとめ、ユネスコスクール加盟校や加盟検討校に配布しました。制作物はユネスコスクール公式ウェブサイトでも閲覧可能です。

<http://www.unesco-school.mext.go.jp/materials.edu/>

● 地域ユネスコスクールネットワーク促進



ユネスコスクール加盟校教員主体の自発的なネットワーク構築・強化について話し合う会議を実施しました。イギリスからホールスクール・アプローチを用いて ESD 実践をしている専門家 (Ann Finlayson 氏) を招へいし、ネットワークの効用について話を聞き、国内でのネットワークのあり方について、ユネスコスクール加盟校教員を中心に議論を行いました。

会議の内容を制作物『これからのユネスコスクールを考えようーWhole School Approach』（日英併記）としてまとめ、ユネスコスクール加盟校や加盟検討校に配布しました。制作物はユネスコスクール公式ウェブサイトでも閲覧可能です。

<http://www.unesco-school.mext.go.jp/materials.edu/>



ESD 実践をしている専門家 Ann Finlayson 氏を交えてのワークショップの様子

② 文部科学省の委託を受け、ユネスコスクールの質的向上に向けた自主的なネットワーク構築事業を行いました（会議 2 回実施）

現在、日本のユネスコスクール加盟校数は 939 校にも増え、約 10,000 校ある世界のユネスコスクールの約 1 割にもあたります。今後は加盟校の質の向上が求められています。

本事業で実施した会議の中で、加盟校教員から、地域のネットワークを中心にした加盟校同士の自発的な全国ネットワークの構築、強化についての呼びかけがあり、ネット



ワークのあり方、ネットワークを通して実現したいことを話し合いました。会議の様子は「ユネスコスクール全国ネットワーク設立企画会会議報告書」としてまとめられ、加盟校、加盟検討校に配布されました。

IV 世界遺産等文化遺産保護事業

アジア太平洋地域を対象とした文化庁委託事業「アジア太平洋地域世界遺産等文化財保護協力推進事業」、ならびに奈良県および奈良市からの補助金による下記の事業を実施しました。

1. 文化遺産の保護に資する研修の開催

(1) 集団研修

文化庁、文化財保存修復研究国際センター(ICCROM)、独立行政法人国立文化財機構との共催で集団研修を実施しました。アジア太平洋地域の15か国から、主として木造建造物の調査や保護に従事している専門職員15名を招き、文化遺産保護に関わる基礎的な理念や、文化財建造物の記録法、修復計画の立案、管理活用などに関する最新の方法・技術を習得するための研修を行いました。



プログラム名：文化遺産の保護に資する研修 2015（集団研修）－木造建造物の保存と修復－
日時：平成 27 年 9 月 1 日(火)～10 月 1 日(木) 場所：奈良市他 参加人数：15 名
共催：文化庁、ICCROM、独立行政法人国立文化財機構、ACCU

(2) 個別テーマ研修

アジア太平洋地域の複数国を対象に、実際に現場で文化遺産保護に携わる担当者を招き、共通課題である博物館実務をテーマに取り上げて研修を実施しました。収蔵文化財の記録・登録・管理方法や、展示・活用の実務など、学芸分野の最新の方法・技術を学習しました。

プログラム名：文化遺産の保護に資する研修 2015（個人テーマ研修）－博物館等における文化財の管理と展示活用－
日時：平成 27 年 11 月 10 日(火)～12 月 8 日(火) 場所：奈良市他
参加人数：ネパール 2 名、モルジブ 2 名、スリランカ 2 名
共催：文化庁、独立行政法人国立文化財機構、ACCU

過去の研修参加者から届く当該国の文化遺産保護に関する活動報告を ACCU Nara International Correspondent Regular Report にまとめています。ACCU 奈良事務所のウェブサイトからダウンロードできます。<http://www.nara.accu.or.jp/>

2. 国際会議の開催

文化庁、独立行政法人国立文化財機構、ユネスコ・アジア太平洋地域世界遺産研修研究所（上海センター）との共催で「木造建造物の保存理念を再考する」をテーマに国際会議を行いました。当該テーマの会議は、3か年の計画で2013年に開始したもので、今回が最終回です。これまで、2013年に奈良で「木造建造物の修理方法と保存の理念」を、2014年に上海で「木造建造物のある文化的景観と地域社会」をサブテーマに議論を重ねてきました。最終回の今回の会議では、従前2回の議論も踏まえながら、アジア地域における木造建造物の価値の所在と真実性の概念について、総括的な議論を行い、当該シリーズの会議のまとめとしました。



プログラム名：文化遺産に関わる国際会議等の開催「木造建造物の保存理念を再考するーアジアの木造建造物の価値の所在と真実性概念ー」

日時：平成27年12月15日(火)～17日(木)

場所：奈良市 参加人数：19名

共催：文化庁、独立行政法人国立文化財機構、ユネスコ・アジア太平洋地域世界遺産研修研究所（上海センター）、ACCU

3. 文化遺産ワークショップの開催

アジア太平洋地域の文化遺産保護に携わる担当者に対して、現地に専門家・職員を派遣して研修を行う「文化遺産ワークショップ」をブータン王国で開催しました。ブータン内務文化省傘下の遺産保存課、国立博物館、国立図書公文書館などに所属する担当者20名が参加して、文化財建造物や美術工芸品などの写真による記録法について、基本となる知識と技術を習得しました。

プログラム名：文化遺産の保護に資する研修2015（文化遺産ワークショップ）

日時：平成27年10月26日(月)～31日(土)

場所：ブータン王国・ティンプー

参加人数：20名 共催：文化庁、ACCU、ブータン内務文化省文化局



4. 広報事業

- (1) ウェブサイト「文化遺産保護協力事務所ホームページ」（日本語・英語）を更新して事業広報を行いました。<http://www.nara.accu.or.jp/>
- (2) 機関誌「文化遺産ニュース」28号を発行しました。

5. 地域交流事業

(1) 世界遺産教室

高校生に文化遺産保護の重要性を啓発するため、奈良県内の高校 10 校（県立 9 校、市立 1 校）に講師を派遣し、世界遺産条約の意義や目的、身近にある世界遺産や国外の世界遺産について分かり易く解説する出前授業を行いました。

日時・場所：

平成 27 年 5 月 12 日(火) 奈良市立一条高校、6 月 8 日(月) 奈良県立奈良朱雀高校、6 月 11 日(木) 奈良県立二階堂高校、6 月 17 日(水) 奈良県立高田高校、9 月 8 日(火) 奈良県立西の京高校、10 月 6 日(火) 奈良県立法隆寺国際高校、10 月 14 日(水) 奈良県立橿原高校、11 月 5 日(木) 奈良県畝傍高校、11 月 13 日(金) 奈良県立五條高校、11 月 24 日(火) 奈良県立吉野高校

(2) 文化遺産国際セミナー

より多くの皆さんに、文化遺産保護の重要性について理解を深めてもらうために、講演と座談会によるセミナーを開催しました。

プログラム名：文化遺産国際セミナー「造替の文化と世界遺産」

日時：平成 28 年 1 月 9 日(土) 場所：奈良市

参加人数：約 300 名 主催：ACCU 後援：奈良県、奈良市

V 広報活動事業

1. 事業紹介パンフレットの作成と機関紙の発行

ACCU の事業紹介パンフレットを更新し、ACCU 事業や関係イベントで来場者に配布しました。また、機関紙「ACCUnews」No.396~398 を発行(年 3 回)し、維持会員、寄附者をはじめ関係者に送付し、広報資料として広く活用しました。読者に関心をもって読んでいただけるよう編集を工夫し、事業の理解につながるよう心がけました。

No.396 (2015 年 7 月号)	特集 ユネスコ 70 周年に考える 事業報告 若者プロジェクト、世界教育フォーラム報告 高校模擬国連、韓国教職員招へいプログラム 他
No.397 (2015 年 11 月号)	特集 識字への取組 SMILE Asia プロジェクト 事業報告 ユネスコスクールの国際協働学習 ESD 日米教員交流プログラム、若者プロジェクト 日本教職員韓国派遣プログラム 他
No.398 (2016 年 3 月号)	特集 広がる教職員交流事業 事業報告 ユネスコスクール活動報告 ESD Food プロジェクト ユネスコ国際セミナー、高校模擬国連、若者プロジェクト 他



2. ウェブサイトの更新と充実

ウェブサイト「ACCU ホームページ」を随時更新し、ACCU の活動を国内外に紹介し、事業広報を行うとともに、事業の成果を公開し、一般の利用に提供しました。ACCU 公式 Facebook を活用して、タイムリーに活動の紹介やイベントのご案内をしました。今後も継続して定期的な情報発信に努めます。

ACCU ホームページ : <http://www.accu.or.jp>

ACCU 公式 Facebook : <http://www.facebook.com/accu.or.jp>

3. 企画、外部連携

民間企業との連携をめざして企画提示等を行う中で、フマキラー株式会社様が感染症予防を目的として実施された「命のそばに。プロジェクト」の寄附先に選ばれました。このキャンペーンは平成 27 年 3 月 1 日から 7 月 31 日の期間中、殺虫用品、園芸用品の売り上げ 1 個につき 1 円が ACCU に寄附されるものです。いただいたご寄附は今後、ACCU がアジアで展開する若者プロジェクトや母子保健をテーマとした識字教育等の事業に活用させていただきます。

4. その他の広報活動

ライブラリー他について

制作物や事業を通じて収集したアジア太平洋地域諸国の絵本、識字教材等を所蔵、運営してきたライブラリーの蔵書を関係各所への寄贈を行って整理しました。平成 27 年度は規模を縮小して、ACCU の制作物を中心に資料の閲覧や貸出希望に対応しています。

また、所蔵する写真パネル（ESD フォトメッセージ・コンテスト入賞作品）の貸出により、ESD の広報に貢献しました。

VI その他/東日本大震災被災地支援

東日本大震災ユネスコスクール ESD 支援募金

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災で被災した地域の教育復興への協力と支援のため設立した「東日本大震災ユネスコスクール ESD 支援募金」への支援をお願いしました。支援募金は引き続き行ってまいります。